

タマネギは球の大きさが肥大開始期の株の大きさに決まってくるので、苗の大きさや定植方法が重要になります。以下、管理のポイントをまとめました。

★育苗（9月）

有機質に富んだ、排水がよくて保水性に優れたほ場を苗床にします。盛夏期に堆肥や元肥を施用し、耕耘畝立てをして、畝をビニールで被覆する太陽熱消毒を行います。太陽熱消毒によって病害虫の発生を少なくできます。発芽から本葉2枚の頃までは極端に乾燥に弱いいため、過湿にならないようにかん水を行います。本葉2枚を過ぎたら徐々にかん水量を減らし、根張りのよいガッチリした苗を作ります。

★定植（10～11月）

定植時の植付けの深さは重要なポイントで、葉鞘部の半分位置である図のBの深さまで土に埋めるよう

にします。Cの深さまで深く植えると翌春の生育が著しく悪くなったり枯れてしまします。

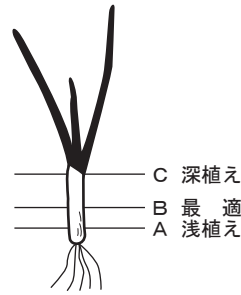


図 根付け深さ

★病害

①べと病

最も重要な病害です。秋から冬の間に感染した株が本ほでの感染源になります。Zボルドー（500倍）、ダコニール1000（1000倍）、ジマンダイセン水和剤（400～600倍）などで予防します。感染した株は抜き取ります。特に苗床から本ほへ持ち込まないように注意してください。

②苗立枯病

土壌消毒を行わない苗床で発生しています。太陽熱消毒で病気の発生を抑えます。

（塚本）

# タマネギ栽培のポイント

～球を大きく作るために～

## 技術 & 情報

# ウリ科の退緑黄化病にご注意を！

～葉に淡い緑の斑点が出ていませんか？～

ウリ類の病気である「退緑黄化病」が、昨年の夏から千葉県内で発生しています。この病気はキュウリ、スイカ、メロンなどウリ科植物に発生します。収量が大きく減少することもありますので、次の症状が見られたらご注意ください。

【症状】葉に淡い緑の小斑点が発生します。その後、斑点が大きくなり、葉脈を残して葉全体が黄化し、葉の縁が裏側に向かって巻き込みます。生育初期に発生すると収量が減少します。

【伝染】タバココナジラミという体長約8mmの虫が媒介します。葉をゆすると白い小さな虫がフワフワ飛び、見つけれられます。

【対策】  
① 持ち込まない  
コナジラミが付いている野菜苗を買わない。植え付けない。  
② 増やさない  
コナジラミを排除する。  
コナジラミの発生源にな

る畑周辺の雑草を除草する。  
③ 広げない  
症状が出たらすぐに根元にから抜き取り、ビニール袋で密閉し、完全に枯れてから捨てる。  
病気の拡大防止に、皆様のご理解とご協力をお願いします。  
（上堀内）



退緑黄化病のキュウリの葉(左)とタバココナジラミ(成虫)